

果樹の主要な病害虫の発生状況（10月）

1 リンゴ

(1) リンゴ褐斑病

新梢葉における生ほ場割合は、県北では平年よりやや高く、県中・県南では平年並、会津では平年よりやや低い状況でした（図1）。中通りでは多発生のは場が確認されており、発生程度が高い状況です。

本病原菌は罹病落葉で越冬するため、発生園では落葉を適切に処分し、菌密度低下を図りましょう。

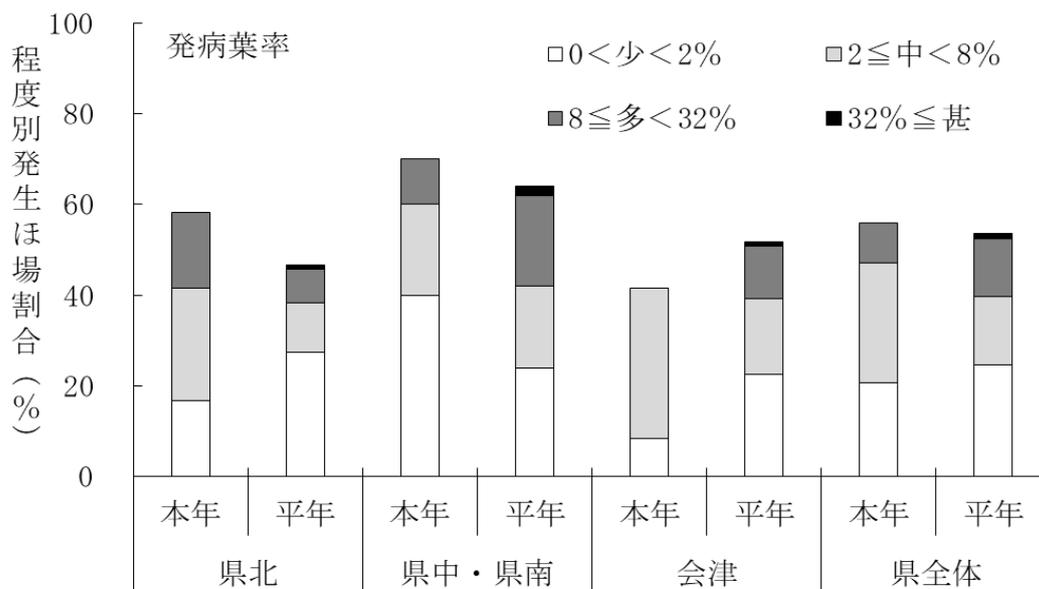


図1 リンゴ褐斑病の新梢葉での発生状況（10月上中旬）

(2) リンゴ炭疽病

果実での発生ほ場割合は、平年より少ない状況でした（図2）。

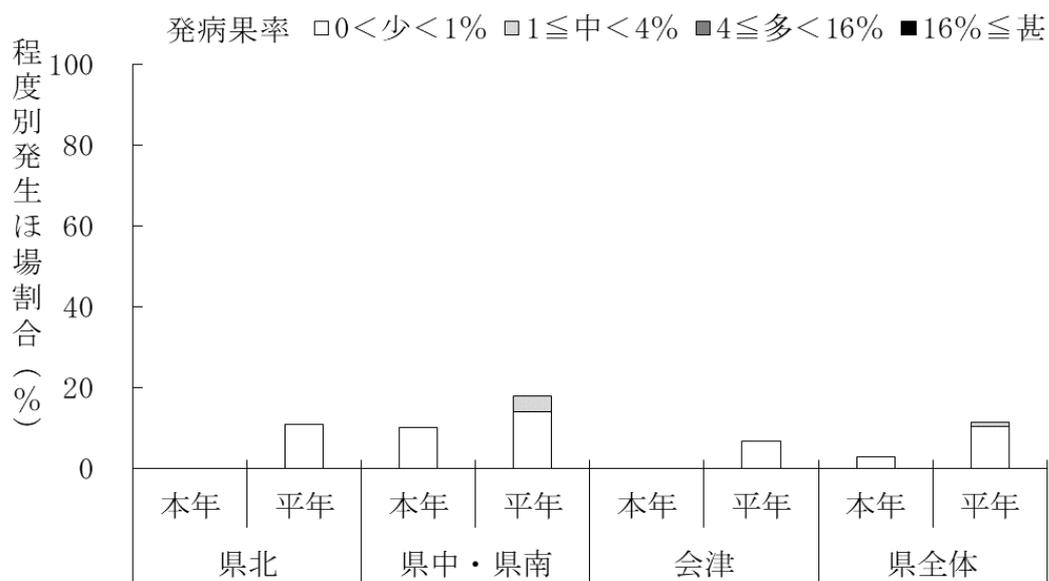


図2 リンゴ炭疽病の果実での発生状況（10月上中旬）

(3) リンゴ輪紋病

果実での発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図3）。

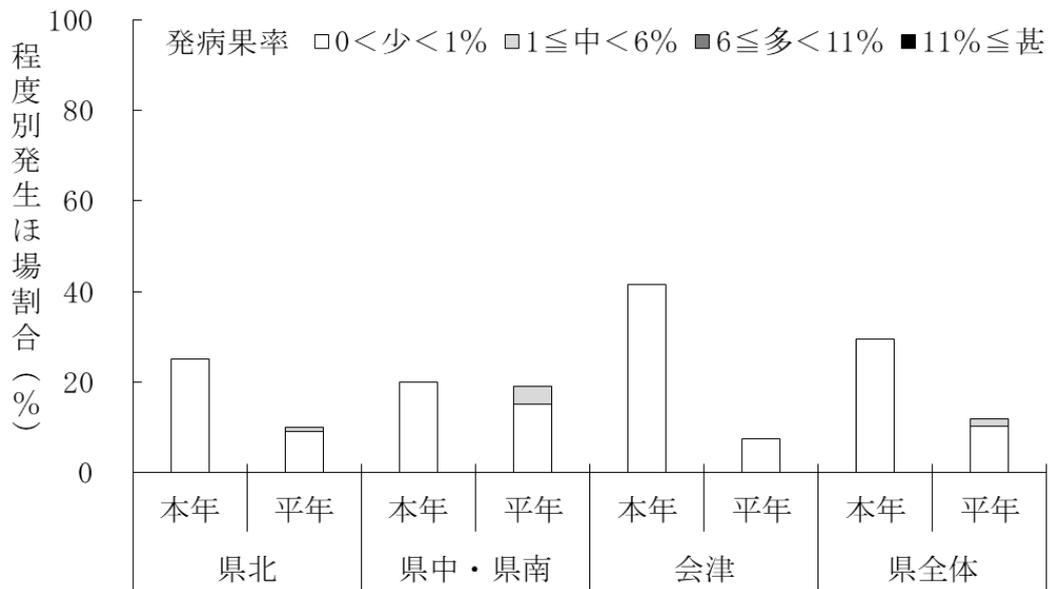


図3 リンゴ輪紋病の果実での発生状況 (10月上中旬)

(4) カメムシ類

果実被害の発生ほ場割合は、全地域で平年より高い状況でした。県中・県南地方では中発生のは場も確認されました（図4）。なお、ツヤアオカメムシの飛来が続いていますので、ほ場への飛来状況を観察して、多数の飛来があった場合は防除を行ってください。

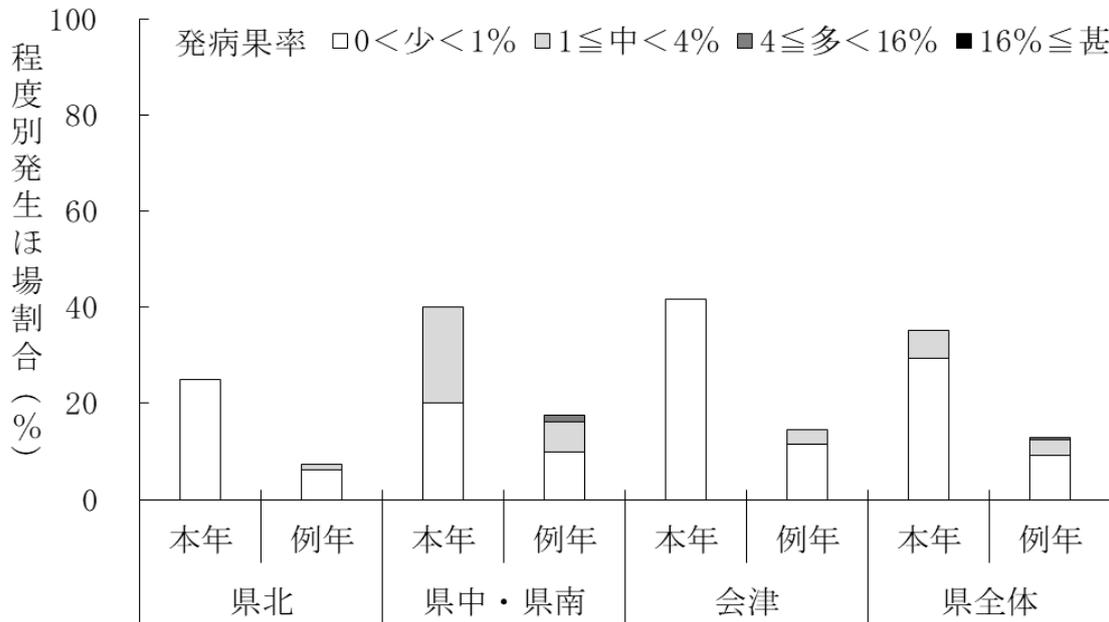


図4 リンゴでの果樹カメムシ類のリンゴ果実での発生状況 (10月上中旬)

2 モモ

(1) シロカイガラムシ類

シロカイガラムシ類の側枝寄生の発生ほ場割合は、福島地域では平年よりやや低く、伊達地域では平年よりやや高い状況でした（図5）。

また、農業総合センター内のウメにおいて、ウメシロカイガラムシの歩行幼虫の発生消長を調査した結果、9月に入り第3世代幼虫の発生が確認されました（図6）。従来、当県では5月と8月の2回発生と考えられていましたが、本調査において、第3世代幼虫の発生が確認されました。今後、せん定時などに発生状況を確認し、翌年の休眠期防除を徹底しましょう。

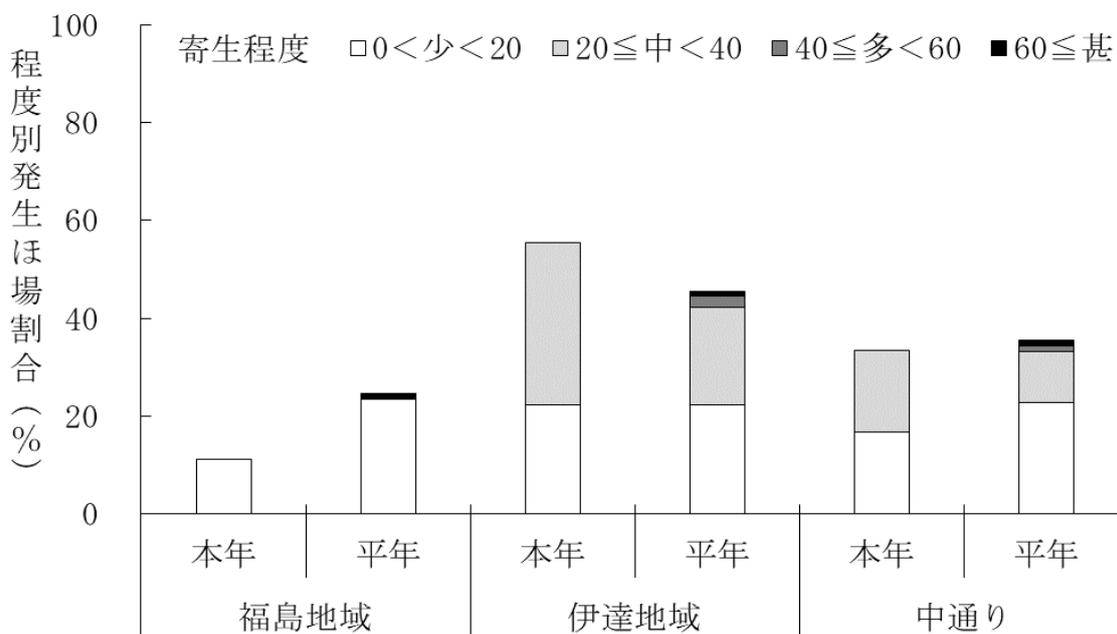


図5 モモの側枝におけるシロカイガラムシ類の寄生状況 (10月上旬)

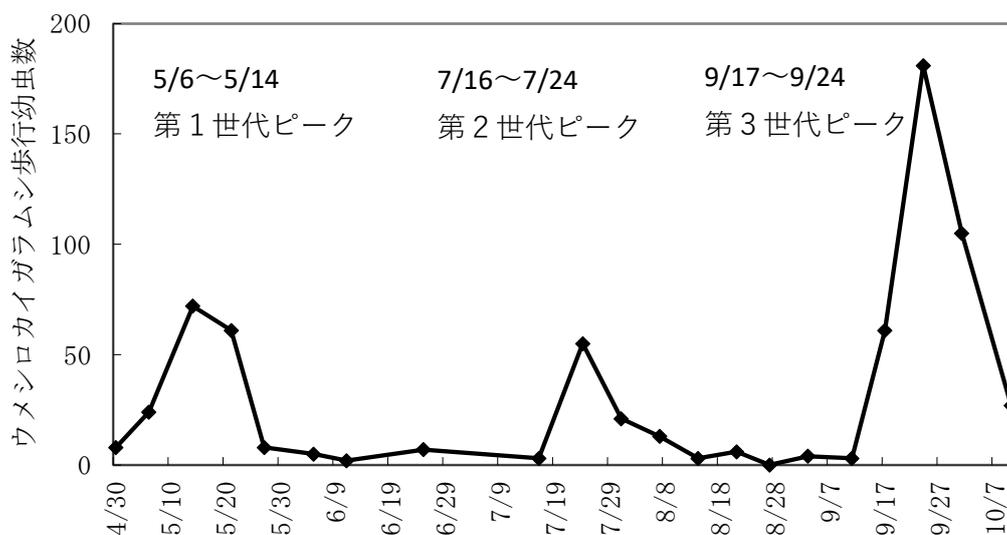


図6 ウメにおけるウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発生消長

3 ナシ

(1) ナシ黒星病

新梢葉における発生ほ場割合は、県北や浜通りでは平年よりやや低く、県中・県南では平年並の状況でした（図7）。

来年の芽基部病斑の発生につながる、りん片生組織への感染を防ぐため秋期防除を行います（参考：令和4年度普及に移しうる成果（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>））。重要防除時期は10月上旬～11月上旬で、2週間間隔で2～3回散布を行います。最終散布は落葉率80%頃を目安としましょう。

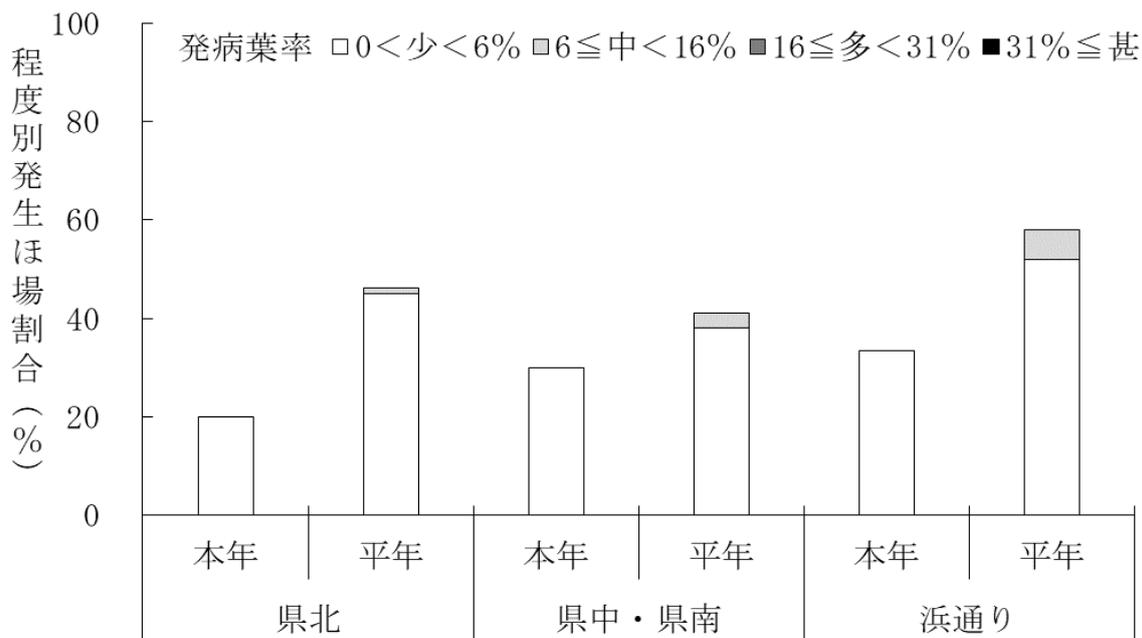


図7 ナシ黒星病の新梢葉での発生状況（10月上旬中旬、幸水）